

令和元(2019)年 8 月 20 日

報道機関 各位

教育委員会事務局 文化課

令和元年度足利市民文化賞受賞者の決定について

本市における科学、芸術、文化財保護等の文化の発展に貢献し、業績が顕著な者を顕彰する足利市民文化賞について、本年度の受賞者が次のとおり決定しましたのでお知らせします。

1 受賞者（2名、敬称略）※年齢は令和元(2019)年 11 月 3 日現在

[邦楽] 鈴木 三郎（岳鷹）（すずき さぶろう（がくよう））

82 歳・大沼田町

大学時代より本格的に吟を学び、平成 9（1997）年に吟詠アカデミーガクヨウを設立。宗家会長として門下生への指導にあたるほか、足利吟詠剣詩舞道連盟理事長、栃木県吟剣詩舞道総連盟吟詠部長、財団法人日本吟剣詩舞振興会参与を歴任し、吟詠剣詩舞の発展及び継承に尽力している。

指導者として努力を惜しまず、市内数か所で教場を立ち上げ、吟詠の普及に力を入れている。中でも、栃木県初の少壮吟士を育てあげた功績は多大である。

また、現在も、大会や文化祭等の企画、運営にあたるほか、多数の脚本を創作し、演出を行っている。

[文化財保護] 臼井 好雄（うすい よしお） 78 歳・八幡町

足利市文化財愛護協会の役員を務め、事業推進及び発展に尽力し、文化財愛護活動を続けている。

長年、庚申塔を主とする石造物の調査・研究を続け、その成果を足利市文化財愛護協会『会報』に継続的に発表している。特に県町で発見された、沖縄・九州地方以外では分布の少ない「石敢当^{せきかんとう}」を調査の結果、県内最古のものと報告したことは特筆される。

また、奥河内^{おおこうちきよか}清香の研究者としても知られ、足利学校で所蔵する奥河内清香の著書の翻刻作業に中心的な役割を果たしている。翻刻作業の成果は、史跡足利学校研究紀要『学校』に継続的に報告している。

2 贈呈式

日時 令和元(2019)年 11 月 3 日 (日・文化の日) 午後 1 時半開式

会場 足利市民会館 第 1、第 2 特別室

※市長より、賞状及び記念品 (ブロンズ像、バッジ) を贈呈

3 参考

これまでの受賞者 (昭和 56 年度～平成 30 年度)

個人 : 105 名、団体 : 3 団体

担当 : 文化振興担当

電話 : 0284-20-2229